熊本大学附属図書館報

東光原
NewsLetter

附属図書館公認キャラクター「くまぽん」

第10回東光原文学賞

受賞作決定！

大賞

「この子の物語」　たけみや もとこ（文学部3年）

優秀賞

「天萌ゆる」　苛屋（文学部3年）

「愛別離苦の計略」　水田 修（自然科学研究科修士2年）

「痛み」　森 水希（文学部2年）

特集　東光原文学賞受賞者インタビュー　2-3p

特集　第 10 回東光原文学賞受賞者インタビュー

Ｑ１．受賞作へ込めた思いをお願いします。
Ｑ２．小説を書いている過程で楽しかったこと、工夫したこと、苦労したことなど教えてください。
Ｑ３．これから東光原文学賞に応募しようかなと思っている人へアドバイスをお願いします。
Ｑ４．その他、伝えたい事などありましたらお願いします。

たけみや　もとこさん（大賞「この子の物語」）

Ａ１．長年飼っていた犬を亡くしたのがきっかけで、この小説を書きました。命と命が結びついて生きていること、胸のどこかで覚えているのに、私がいつも忘れてしまうことを、現実的に描きました。

Ａ２．本格的に小説を書き始めて十年以上になりますが、ここまで執筆に苦しんだ作品はほとんどありません。決して軽いテーマの話ではないので、一文一文、どれだけ言葉選びに妥協しないかが、作品としての出来を決めると思っていました。読者を下手に感動させようとせず、自分が納得できる言葉だけで物語を作りました。時間はかかりましたが、私にとって本当に大切な作品ができました。「この子」という名前を付けたのは、ペットを飼っている人、愛したい誰かがいる人皆に、「この子」を身近に感じてほしかったからです。

Ａ３．「面白い話は考えたんだけど、どう形にしていいかわからない」という悩みをよく聞きます。まずは書くことです。開き直って、ラクガキのつもりで、毎日一文字でも多く書くことが大事です。ひとたび文字にすれば、自分の文章の拙さや、想像力の貧しさを、往々にして意識させられます。でも文字にしなければ、自分の面白いと思っている話が「よくあるネタ」であることすらわからないまま、創作が頭の中で完結してしまいます。紙に書き出して初めて見えてくることもあります。書く習慣、がもう身についている方は、作品の読み直しをいやになるまでやってみてください。暗記するほど推敲を重ねた小説は、懸けた労力分の読み応えを持ちます。

Ａ４．「天萌ゆる」を書いた苛屋さんと、私たけみやは、学内の文芸サークル「セピア」に所属しています。本好きな友達、物を書く友達がたくさんいることが、創作の励みになっています。サークルの活動の中で、好きな本を紹介しあったり、お互いの作品を読みあったりした経験は、今の自分の小説にも活きていると思います。

苛屋さん（優秀賞「天萌ゆる」）

Ａ１．思い、と言えるかわかりませんが、自分の作品には「こうなったら面白いな」「こうだったらいいな」という願望が込められています。そしてそれが実現したとき人々はどうなるのか、という問いも込めました。

Ａ２．登場人物の台詞を考えることが楽しく、また難しかったです。なるべく読んでいて楽しい台詞を書こうとしていたので、なかなか思いつかず、大変でした。また、物語のラストをどう描こうかということも悩みました。

Ａ３．１つの物語を書き上げるというだけでも、ものすごい労力がかかっていると思います。ですので、作品ができあがったら、自分は大変な偉業を成し遂げたんだと思って自信をもって応募するといいと思います。

Ａ４．自分の妄想・空想がこのような形で認めてもらえて嬉しかったです。また、どんなとりとめもないことでも、形にすることによって喜びや楽しさを得られるということを実感できました。ありがとうございました。

水田　修さん（優秀賞「愛別離苦の計略」）

Ａ１．数回応募しているので、以前のものより質の高いものを作ろうと考えて作りました。また、先にいくつか「こういうものを作りたい」というコンセプトがあったのでそれを満足させることを目標にしてみました。

Ａ２．最初のコンセプトを考えている間が最も楽しかったです。また、内容を短編に落とし込むために序盤を工夫したつもりです。苦労した点は「コンセプト」と「あらすじ」が先に決まってしまって、ページ数も決まっているので書くべきことを書いているだけで自分の技量では遊びをなかなか入れることができず苦労しました。

Ａ３．真面目に書くのはすごく恥ずかしいですが、真面目に書きました。私は小説内の登場人物の言葉と作者の言葉は違うと割り切っています。そうでないと恥ずかしくて耐えられません。しかし「書いていて恥ずかしい」というセンサーは大切だと思います。恥ずかしい「でも」書く、恥ずかしい「から」書かない、というのが筆者の判断力だろうと思います。

Ａ４．小説を書いて、全く知らない人に、しかも短編で感想をもらえるのはとても手軽で、また楽しかったです。来年は卒業してもう応募できないのが残念ですが、これからも読者としてこの東光原文学賞を毎年の楽しみにさせて頂きます。

森　水希さん（優秀賞「痛み」）

Ａ１．不器用でたとえ実りのない恋があってもいいじゃないか、という思いで書きました。物語では、可能性が限りなくゼロに近い恋ゆえに膨れ上がった気持ちを抱えた主人公が、ひとりで些細なことに葛藤したり悩んだり時には喜んだりする日常を描いています。いわゆる「リア充」とはほど遠い境地にいる主人公ですが、彼女は誰よりも恋に夢中でまっすぐです。そんな彼女の不安定に揺れ動く気持ちそのものに何にも変えがたい価値があるのだということを作品に込めました。

Ａ２．ストーカー気質のある主人公が、人知れず先輩に思いを募らせている様を書くのがとても楽しかったです。辛い状況に置かれている主人公ですが、その状況自体をあまり悲観的ではなくコミカルに描きたいと思って内向的な奥手女子を主人公にしました。苦労した箇所は彼女の片思いゆえに激しい気持ちの起伏の表現です。友人との会話によって気持ちが揺さぶられる描写や、さっきまで楽しんでいたのに急に気持ちが落胆したりなど、「片思いあるある」をたくさん作品に散りばめました。作品全体では、できるだけ飾らない、等身大の文章を心がけました。

Ａ３．書くことで新たな自己の発見にきっと繋がります。「小説を書く」と言うとなんだか堅苦しくて身構えてしまいがちですが、肩の力を抜いて誰のためでもない小説を書いてみてはいかがでしょうか。

Ａ４．東光原文学賞は素晴らしいイベントなので、是非今後も続けていただきたいです！

「東光原文学賞作品集」は
3月末に刊行！
HPでも後日公開予定！
乞うご期待！！！

JapanKnowledge（ジャパンナレッジ）Lib を使ってみよう！

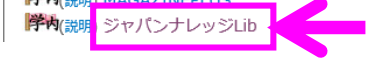
JapanKnowledge（ジャパンナレッジ）Lib とは、約 50 種類の辞事典、叢書、雑誌などを横断的に検索できる有料のデータベースです。図書館で契約していますので、学内の PC であれば自由にご利用いただけます。**『会社四季報』（年４回更新）も収録されていますので、就活にも役立つと好評です。**

図書館 HP からアクセスできます、どうぞご利用ください。なお、同時アクセスには制限があります。入れない場合はしばらく待って再トライしてください。利用が終わったら「ログアウト」をお忘れなく。

①図書館 HP

②文献データベース　サイトマップを選択

③ジャパンナレッジ Lib を選択



④　ログイン画面

⑤　検索スタート

館内で展示中

教員による選書、学生選書員による選書をそれぞれ展示中です
さまざまな分野の本が勢ぞろい　お気に入りが見つかるかも？

文学部歴史学科　安高啓明研究室×附属図書館
連携企画展２　－広告の歴史－